JAZZ ALBUM GUIDE



アイ・リメンバー N.Y.／太田泉

曲の作りには工夫が凝らされている一方で，音の佇まいはあくまで自然体，奇を衒うところがなく聴き飽きることがない

北海道の弟子屈町に住むピアニストによる，ピアノソロを基調とした演奏集。彼女は安田芙充央に作曲技法と即興を師事したあと，80年代と90年代のニューヨークでセッションに通って暮らした。ニューヨークのさまざまな断片をモチーフとする曲が風景を幻視させるのは，そのためでもあるだろう。静かに続く旋律と内省的な残響は，聴く者の記憶の中に忍び込んでは居場所を見つけていく。〈JFK Airport〉の変拍子は不思議な旅に連れ出してくれるし，〈Sketch of The Town〉の3曲⑥～⑧にもまた出逢いの街の驚きがある。曲の作りには工夫が凝らされている一方で，音の佇まいはあくまで自然体，奇を衒うところがなく聴き飽きることがない。〈Sunset on the River〉では夫の太田正伸がテナーサックスを吹いており，これもまたみごとに音風景と溶け合っている。現在は都会から離れた街のため演奏の機会がほとんどなく，曲が貯まると録音して地元の道の駅などに置いてもらっているという。それだけに，この豊穣な音を聴くことができるのは稀有な機会だ。音楽家としての人生を静かに感じさせてくれるアルバムである。（齊藤聡）

■①アイ・リメンバー N.Y. ②ドーン・オン・ザ・リヴァー ③JFKエアポート ④マンハッタン ⑤スカイスクレーパー ⑥スケッチ・オブ・ザ・タウン #1 ⑦スケッチ・オブ・ザ・タウン #2 ⑧スケッチ・オブ・ザ・タウン #3 ⑨アフタヌーン・イン・セントラル・パーク ⑩ユニヴァーシティ・オブ・ザ・ストリート ⑪フォー・ミスター・C# ⑫テイク・ジ・Eトレイン ⑬イフ ⑭マイ・グラティチュード ⑮サンセット・オン・ザ・リヴァー ⑯グッドバイ N.Y.
■太田泉(p) 太田正伸(⑮:ts) 2026年5月21, 22日横浜で録音
■ラッツパック・レコード PourquoiLabel POUR-1014 11月11日発売 3,300円(税込)

伊藤嘉章●インタビュ

ジャズやクラシックの枠を超えて滲み出る心象風景
北海道・弟子屈で創作を続ける太田泉のソロ・ピアノ
新作『I Remember N.Y.』が描く余白と美しい旋律



都市圏外で創作を行う音楽家は情報が入りにくいが作品を知りハッとさせられる事が多い。太田泉(p)のソロ・ピアノ作品『I Remember N.Y.』がそうだ。20代でジャズやクラシックの枠を超えて国際的に活躍する作曲家兼ピアニストの安田芙充央に師事し都内で活動後渡来。80年中盤～90年代のNYにどっぷり浸かって帰国。15年前に北海道東部の弟子屈(てしかが)に転居し活動を続けている。摩周湖や屈斜路湖の町だ。アルバム・タイトルのニューヨークからストレートアヘッドなジャズを想像されるかもしれない。だがその音はジャズ, アンビエント, クラシックなどの単語を重ねたくなるコンテンポラリーな響きで, 研ぎ澄まされた情景や心の動きが伝わってくる。観念的・抽象的ではなく, 彼女の歩調や息づかいが美しいメロディと余白を通して静かに届く。人の鼓動と北の大地の静謐さが同居する音がどのように出来たのか, 本作のプロデューサーの安田にも同席頂きお話を伺った。

「ピアノは 4歳からクラシックをやり20代でジャズに。バド・パウエルやビル・エヴァンスですね。そのころ安田さんに師事しました。その後バークリーで学んだ主人(本作で1曲共演のMasanobu Ota:sax)と結婚してNYへ移住。80年代中盤のフュージョン時代のあとアコースティック・ジャズが復権した良い時期で, 多くのライヴに感銘を受けました。特にダラー・ブランドは言葉も出ないくらい感動しました」(太田)

帰国後, 再訪を目指すが叶わない中, ジャズから指向が広がっていった。

「北海道に取り憑かれちゃって移住を決めました。風景を見ているとシベリウスとかラフマニノフやチャイコスキーが前より理解できて音楽は環境から生まれるんだなって思いました」(太田)

そして北海道で自主制作盤を出し, SNSにアップしたピアノソロを安田が聴き本作へと繋がる事となる。

「清冽な叙情というか非常に純粋な感性に, 語法とかではなく昔と変わらない個性を感じました。方法論的には最先端にいて, そしてカーラ・ブレイとか, あのあたりの匂いもすごく感じる。ソロ・ピアノの形から今後発展するのが楽しみだなと」(安田)

作品は太田の頭に常にあるというニューヨークを題材にした16曲。穏やかな〈マンハッタン〉や〈マイ・グラティチュード〉, 雑踏の音や硬質の孤独感を感じる〈JFK エアポート〉, 哀感から希望まで気持ちが詰まった〈アイ・リメンバー N.Y.〉など, 太田から自然としみ出したものが風景, 空気感, 思いを聴く者に感じさせる。変拍子の曲もそれを意識させない。何度もバリエーションを検討した曲もあるという演奏は「録音時には構築されていた」(安田)というイメージが明確なものだ。

「難しいことを考えないで自然体で楽しんでもらえたら。なんかいい気持ちになったとか, 今日良かったなとか何気なく聞いてもらえたらうれしいです」(太田)とのメッセージの通り, 美しい旋



律とそれを奏でるピアノの響き
シンプルに楽しんで頂ければと

『I Remember N.Y.』(Pourquoi Label)